

火山と上手に暮らす口永良部島 合言葉は「いつ起きても大丈夫!」



火山防災研究部門 部門長 棚田 俊收

全島民避難から帰島

口永良部島（くちのえらぶじま）は、世界遺産で有名な屋久島の北西約12kmにある火山島です。島の面積は山手線内側面積の半分程度で、152人の方々が暮らしています（平成22年国勢調査）。

この島の新岳で、おおよそ34年ぶりの噴火が2014年8月と2015年5月に起こりました。2015年の噴火では、噴火警戒レベルが5に引き上げられ、全島民が屋久島などに避難しました。避難指示は約1年1ヶ月後に解除され、約8割程度の住民が帰島したと当時の新聞は伝えています。

島民による手作り防災対策

住民帰島後、島では避難経路の標識や案内板の整備などの防災対策が進められています。その中で、手作り感あふれる防災対策を目にしたので、ここで紹介します。

口永良部島子ども会は、32cm×32cmの用紙を9つ折りにした手のひらサイズの印刷物「噴火を体験した島の子供たちと一緒に作った口永良部島自然災害マニュアル」を発行しました。

このマニュアルには、子供たちの目線で噴火を通して感じたことがつづられています。特に、「噴火からの時間の流れ」という節では、噴火・一時避難・離島・避難生活・帰島までの一連の出来事の体験や思いが語られ、そこから学んだことや気づいたことに対し、大人からのコメン

トが記されています。

防災ガイドBook付き観光パンフレット「口永良部島においてよ!」には、島で安心して過ごしてもらうために、火山だけではなく津波や地震などの話がまとめられています。副題の合言葉「いつ起きても大丈夫!」は、このパンフレットで使われています。

また、有志の方のご尽力で、YAMAP（ヤマップ）というアプリを通して、島内の立入禁止区域や避難経路、待避壕の位置がわかる地図をダウンロードできるようになりました。

観測点の復旧

私たちの観測点は、2度の噴火の影響を受け、現在観測を停止しています。できるだけ早く観測を復旧させ、火山と上手に暮らしていこうとする住民の方々に貢献していきたいと考えております。



ソーラーパネルによって観測強化された
口永良部島七釜観測点